

10月の夜空 日の流みも目立つて早く、夕餉に

聞くラヂオニュースに、戦況は如何にと緊

張する頃、もう澄み渡つた秋空には、星の

御膳立も出来上つて居る。

1938年

10月の天象

日の流みが一ヶ月に40分も早くなる頃で

あるから、薄明の終焉を基準にすると、前月に比較して割合進みが少なく見えるが、然し、やはり射手座はもう夕焼に混じ、ヴェガ、アルテール、デネブの諸星も、天頂から可なり西に移籍して來たのに氣付く。中天にはペガスの四角形が占め、アンドロメダ、カシオペアも東北に高い。南では、南魚の主星ファウマルフォートが今月中する。東西には巨大な鯨座が、薄氣味悪く控へて居る。東北にはペルセが美しい二重星團と、燈臺星アルゴルを明減させ乍ら、もう舞臺に昇つて來た。やがて夜更と共に、昂、カペラ、其れにアルデバランさへも、晩秋の氣を漂はせ乍ら、靜々と昇つて來やう。

一方遊星の方は、金星が最大光輝を放つて、晩秋の夕景を賑はせて居るが南方に廻つて居るから、早く没し去るのは残念である。然し、夜も更けば、前月に引き續いて、一體に明るい星の少ない秋空の中でも、特に淋しい南天にあつて、木星は西寄に、土星は東寄りに、片や其の巨體の放つ怪光は、正に見掛上“全天光輝選手權保持者”を誇るが如く、小望遠鏡で見た面構へに、不敵レイスの額皺を思はせるものがあるならば、片や土星の麗姿は、ヘー1のスピンにでも喩ふべきか？ ともはあれ、今年の10月の宵夜は、兩巨人遊星の競演だらう。

太 陽 “乙女”座を行進して月末に一寸“天秤”座に入る。表記すれば

日付	赤 經	赤 緯	晝 間	夜 間	夕刻薄明終焉時刻
日	h m s		時間 分	時間 分	時 分
1	12 26 17	- 2°50'	11 50	12 10	19 5
6	12 44 26	- 4 47	11 40	12 20	18 59
11	13 2 44	- 6 41	11 29	12 31	18 52
16	13 21 14	- 8 34	11 18	12 42	18 45
21	13 39 58	-10 23	11 07	12 53	18 40
26	13 58 58	-12 9	10 57	13 3	18 34
31	14 18 17	-13 49	10 47	13 13	18 29

月 先づ1日“射手”座から月齡7.6に始まつて、月末“山羊”座に終る。其の間の様子を示すと

日付	月齡	視直徑	星 座	記 事	時刻
1 ^日	7.6	29' 39"	射 手	上 弦	20 ^時
2	8.6	29 34	射 手	遠地點通過	20
9	15.6	31 02	魚	満 月	18
10	22.6	32 17	雙 子	近地點通過	17
16				下 弦	18
23	29.6	31 16	乙 女	新 月	17
30	7.1	29 33	射 手	遠地點通過	16
31	8.1	29 34	山 羊	上 弦	17

上表の如くである。闇夜が無くなるのは8日から11日まで、反對に全く月の見られないのは22日から25日までである。26日には月齡3.1の利鎌が西天低く見えて、次の周回に入る。

水 星 10日に外合して、曉天から夕空へ廻り込む。然し概して太陽に近いから面白くない。

金 星 光輝益々燦然として、月始め-4.2が16日遂に最大光輝-4.3に達する。其後反つて減光して月末は-4.1と少し降る。視直徑は32"~51"といよいよ細く大きくなるが、30日には停留となり、長らく保つて居た宵の明星の王座から急速に顛落し始める。もう11月に入れば見難くなるから是非此の月に充分見て置く事。

火 星 “しし”座の東端から、月末には一寸“乙女”座に浸入する。然し未だ問題にはならない。9日には遠日點を通過する。

木 星 “山羊”座の東端 δ 星附近で始んど動か無い。19日には停留し。逆行から順行へ移る。光度は-2.3~2.1に、視直徑も43."4~39."6と減少するが、觀測には未だ々々絶好である。本文記事にある様な衛星の模様を觀測する事は少し難事であるが、四大衛星(と云つても見た所は可愛い星だが)が木星を中心に、食、掩蔽、經過、投影、等色々の藝當をして見せるのを楽しむのに最も都合よい。(少し外れて見る割になるから反つて對衝の時よりも面白い)

土 星 “魚”座の中央部を名の如く鎮ず鎮ずと逆行中である。しかも丁度8日

には對衝に來て、9度許り傾いた輪の眺めは全く時の經つのも忘れる位に美しい。光度は+0.5、視直径は17."8であるが、輪は其の2.27倍即ち44."6にも達する。いつ見ても飽きない此の土星!!

天王星 “牡羊”座の中央邊に居る。もう對衝も間近かになつた。光度は6.1、視直径は3."6、10cm以上の望遠鏡には面白い。

海王星 “獅子”座の東端に居る。太陽に近くて先づ駄目。

冥王星 “かに”座の中央部に居る。

小遊星セレス 其後の位置を表にすれば (天界208號續き)

10月1日	赤經 3時 51分 44.8 ^秒	赤緯 +10° 55分 42.5 ^秒	光度 7.8
9	3 49 29.5	10 48 11.5	7.7
17	3 45 55.9	10 38 53.3	7.5
25	3 40 50.1	10 28 48.0	7.4
11月2	3 37 47.1	10 19 12.5	7.3

即ち“すばる”の南邊を逆行中である。

小遊星ハラス 對衝を過ぎたが、位置を示する (天界208號續き)

10月5日	赤經 23時 0分 47.8 ^秒	赤緯 - 5° 55 49.1 ^秒	光度 8.6
9	22 58 34.3	6 44 58.6	8.6
13	22 56 37.3	7 31 33.8	8.7
17	22 54 58.2	8 15 17.1	8.7
25	22 52 38.9	9 33 15.2	8.7
11月2	22 51 43.4	10 37 47.6	8.8
10	22 52 12.9	11 28 49.0	8.9

即ち水瓶のφとλ星の中間邊から南方へ弧を描く様に動いて居る。

アルゴル (ペルセ座のβ) 10月中に見られる極小は

10月9日 1時5 の二回である。

11 22 5

ユリウス日 10月1日21時 (日本中央標準時) は 2429173.0 である。(木邊)